

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2025年春号 vol.32



風車と桜と菜の花の見晴らし公園

見沼たんぼのベストな春の風景のひとつです。春の風に風車が回り、
桜の花が舞い、黄色い菜の花は棚引いています。傍を流れる見沼代用
水西縁に鴨が泳ぎ、憩いの見晴らし公園です。

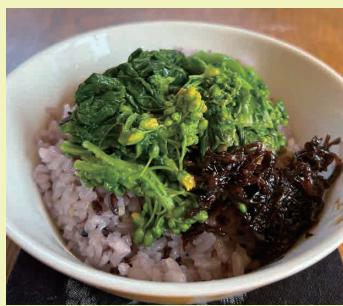


春のこはん

菜の花

見沼に菜の花が溢れています。直売所にも、もちろん美味しい菜の花が溢れています。

菜の花を水洗いし、沸騰した中に投入、2分位が目安です。水の中に戻して水気を絞りおひたしに、翌日のスープの中にと、この時期は食卓を賑わせます。



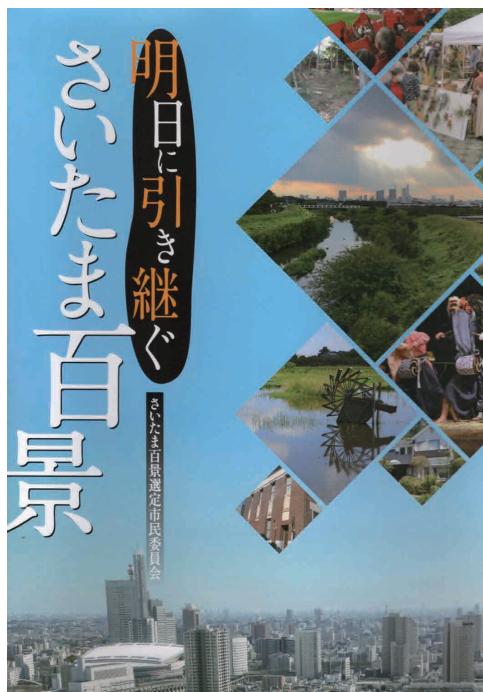
▲菜の花のおひたし



▲菜の花のスープ

『明日に引き継ぐ さいたま百景』の紹介

紹介者:中津原努(編集統括)(まちづくりNPOさいたま理事長)



1. 発行の趣旨:

2010年発行の『市民が選んださいたま百景』の姉妹編。これは、4市合併による市民同士が互いの風景を知ることを目的として発行。今回の百景は旧百景の改訂版ではなく、新しいコンセプトで編集した。

つまり、今後の大変な変化(気候変動、人口減少、超高齢化、経済の低成長、国際化、働き方の変化)の中で、放っておくとなくなってしまう風景、将



▲加田屋新田・泥んこ体験たんぽ



▲膝子・鯉のぼりまつり



▲南部領辻のささら獅子舞

来のさいたま市にとって大事な風景を、“明日に引き継いでいくべき風景”として紹介。

2. 主な編集視点:

大きく3つの視点から20のシリーズに分けて計445の風景を紹介。

- A. 水と地形に関する風景: 治水、利水、親水、農と里山、台地と谷戸、等。
- B. 記憶と文化に関する風景: 遺跡、民俗信仰、古い街並み、伝統行事、地域文化、等。
- C. 現代の市民生活の風景: 住宅環境、街の賑わい、新しいイベント、コミュニティースペース、等。

なお第Ⅲ章では、旧百景100の15年後を調査して報告。

3. 発行主体:

さいたま百景選定市民委員会

編集委員名簿: 相田武文(委員長)、安部邦昭(広報担当)、新井智也、薄井俊二、河相正名、鈴木隆司、田中宏司、加藤三郎、中津原努(編集統括)、能登治郎、久津清二、深堀清隆、藤原悌子、松尾英香(デザイン担当)、三浦匡史、矢萩邦夫、山谷吉孝、若林祥文、渡邊榮樹 以上19名

※購入方法: さいたま市内および周辺市の主要書店で販売中(2,970円)。またはアマゾンからの購入も可能。

その他:

- ・発行には、サイサン環境保全基金の助成を受けるとともに、クラウドファンディングを実施。
- ・今後はこれを活用したまち歩き等により、市民と意見交換をしていきたい。

令和6年度 彩の国埼玉環境大賞受賞

特定非営利活動法人地域人ネットワークが、令和6年度「彩の国埼玉環境大賞」県民部門の大賞を受賞。令和7年2月7日知事公館においてその授賞式が行われました。

地域人ネットワークは2005年の団体設立後、見沼たんぼでナタネや野菜を栽培。生態系に影響を与えない自然循環型農業を実践するとともに、農業と緑地保全の大切さを理解してもらうために、毎年子どもを含む市民を公募して農業体験教室を開催しています。活動開始から19年間(令和6年3月現在)で152回の体験教室を開催、参加市民は延べ7,470名(内、子ども3,788名)。

教室で行ってきたナタネの収穫・油しぼり実験等の幅広い活動が『ナタネ栽培を中心に資源循環を学ぶ農業体験学習活動』として高く評価されたものです。

地域人ネットワークでは大賞受賞を紹介する展示パネルを作成して地域のフェア等で展示し、表彰と一緒に祝ってもらうとともに環境保全のアピールを行っています。



△左から大野県知事、白瀧代表理事、山田副代表理事、川原テレビ埼玉社長



令和6年度 彩の国埼玉環境大賞受賞



◆活動開始から19年間で152回の体験会を開催しています
◆参加市民は、延べ7,470名を超える実績を持ちます

■ナタネ栽培を中心に資源循環を学ぶ農業体験学習事業

- ・農業と緑地保全の目的の『菜の花農業体験教室』開催
- ・見沼たんぼの不耕作地でナタネや野菜を栽培
- ・生態系に影響を与えない自然循環型農業の実践
- ・ナタネの収穫・油しぼりを通じた資源循環の体験学習
- ・収穫野菜の一部は、地域の学校や子ども食堂に提供
- ・カヌーによる見沼たんぼ周辺水路の清掃活動など



特定非営利活動法人
地域人ネットワーク



合同会社十色(といろ) ～見沼田んぼで世界の唐辛子を



▲左から松葉早智さん、サカール祥子さん、釘宮葵さん



▲畑で育つ唐辛子



▲カラフルな唐辛子

さいたまを激辛の聖地に!を目指し女性3人が2021年に創業しました。そのポリシーは①世界各国のさまざまな唐辛子の品種を見沼田んぼで幅広く栽培、②周りの環境に配慮した有機栽培を行うことで、継続的な生産をめざす、③様々な人が活躍できる場所を作りたいとの想いから地元の福祉事業所との協業、等です。

また元々の目的だった見沼田んぼを守るための活動も。唐辛子はもちろん、米・小麦・里芋など様々な農業体験プログラムを用意しています。人と農を繋ぎ、見沼田んぼを未来に残したいとも考え、親子向けには自然の中での遊びや生態系の観察も行うプログラムとなっています。今年1月には農山漁村女性活躍表彰の若手女性チャレンジ部門で「農山漁村男女共同参画推進協議会長賞」を受賞しています。

[HP:<https://toiro-farm.com/>](https://toiro-farm.com/)



はるおかいちご園

米農家からいちご園に2011年転換。大変なコロナ禍を経ても多くのお客様が訪れる人気の観光農園になりました。その秘訣を聞くと「お客様が楽し気持ちはよく過ごせるよう気遣っています」とのこと。他の観光農園だけでなく飲食店などから「気持ちいい接客」を学び、女性スタッフ皆が実践、そして毎日苗の手入れや園内を清潔にするよう努めています。園内の特徴は、品種及びその品種の特徴も大きく判りやすく表示し、お客様が楽し気持ちはよく過ごせるよう、例えば高設栽培でパリアフリーも考慮し車いす、ベビーカーでも入園できる工夫がされています。いちご狩りの品種は紅ほっぺ・かおり野・あきひめ・よつばし等ですが、あまおとめ・紅たま・あまりん等も時期毎に買ることができます。

見沼区宮ヶ谷塔3-186 営業期間:12月～5月初旬

開園時間:10時～当日いちごが無くなり次第

定休日:月・金(赤い実がない時は臨時休業となります)詳しく述べるHP:<http://haruoka-itigo.com/>

またはTEL.080-6554-7497でご確認下さい。)



▲東武アーバンパークライン沿線

▲料金表

見沼のお店紹介!

四季折々カフェ

見沼区中川の圓蔵院並びの住宅で、週1回だけオープンしているカフェがあります。道に面した木の脇にあるお店の案内板も、庭に続くアーチの入口に掛けられた「四季折々」の木の標識も緑に囲まれて静かに佇んでいるので、注意していないとここにカフェがあるとは気が付きません。時間に余裕ができたので、趣味を兼ねてお店を始めたというオーナーの阿部さん。部屋の中には小物や陶器、アクセサリーなどが飾られ、販売もしています。

ふらりと立ち寄ってくれる人などからゆっくり自然に広がっていけばいいと思い、特に宣伝もしなかったのですが、いつの間にかゆるやかな人の輪ができ、そこからまた新たなつながりが生まれてくる。お店を始めてみて、そんなふうにお店が人と人をつないで、思ひがけない出会いやご縁がひろがっていく場となっているのを感じているそうです。

実は取材に伺った時も、訪れたお客様と話が弾んで皆で大いに盛り上がり、取材を忘れて楽しいひと時を過ごしていました。見沼区のオープンガーデン(今年は4/12～13)にも参加していて、宿根草を中心にかわいらしい花々が迎えてくれます。



▲入口



▲ランチのパスタ



▲阿部さん



見沼区中川436-3
火曜日のみ11:30～15:00(ランチも可)
インスタグラム:
[sikiorioricafe](https://www.instagram.com/sikiorioricafe/)

見沼のお店紹介!

風の谷工房

焼き菓子と野菜の小さな直売所を紹介します。オープンから4年、Instagramからのお客様も増え、オーナーの三宅さんの人柄も若い世代から信頼をあつめて、毎週土曜日は皆さんから待たれています。

窓辺での焼き菓子とお茶のひと時も人気のメニューです。

緑区代山447-1 土曜日のみ13:00～17:00(不定休あり)
お取り置き専用アカウント @kazenotani_koubou_koni



▲店内



▲人気のパウンドケーキ



▲採れたて新鮮野菜

写真は全てInstagramより掲載

新規就農者「け八き農園」園主 石井梨乃さん



大学は園芸学部を卒業しても、野菜を作れないとことへの葛藤はありません。



大きなきっかけがあり農家を志すようになったというよりは、もともと食べることや植物が好きという特性を持って生まれ、様々な経験を経た上で農家に落ち着いたという方がしっくりきています。農業は本当に大好きでやりがいを感じる仕事であると同時に幸せな暮らしを送り、それを周囲に広げるための手段でもあると感じています。地方のハーブ会社へ勤めましたが、地元のさいたま市で農的な暮らしをベースにしたコミュニティを創りたく、さいたま市へ戻り、農業研修



を受けました(二ヶ所の農園、埼玉県農業大学校)。見沼の地を踏んだ時の「帰って来た」という感覚や農業が楽しくて仕方がない気持、また、農家になり広い繋がりを持ち営農しています。

栽培は少量多品目露地栽培で固定種や自家採種の野菜やハーブも積極的に栽培しています。

将来の展望です。農園の理念である「植物と人、畑と街を結ぶ」活動(体験農業、手仕事)を軸に、生産量、販路の拡大を図ります。また、原風景を創り(山菜畑、ハーブ畑、果樹畑、花畑、陸稲など)未来に繋げていきたいと思っています。

●主な品目:菜花、ナス、モロヘイヤ、ツルムラサキ、オクラ、バジル、パッションフルーツ、里芋、菊芋、ダイコン等 ●販売先:カインズ浦和美園店、個人のお客様への野菜セット、委託販売、地域の飲食店、マルシェ

緑区新宿、大道 広さ50a

人と環境にやさしい農業の講演会

日本の農業(稻作)を救う極意とは、見沼田圃から未来への挑戦

講師:NPO 法人見沼の里 代表理事 水野清重

期日:2025年6月19日(木) 13:30~15:00

場所:浦和コミュニティセンター 10階第7研修室

申込み及び問合せ先:黒澤

kurosawa@peach.ocn.ne.jp



日本の農業(稻作)は現在、絶滅の危機にあります。それは、職業として生業にならないためです。その問題点及び原因を解き明かし、何故、今、令和の米騒動が起ったのか、何故、お米の値上がりが突然始まったのか、今後はどうなるか?政府の有効な対策はあるのか、そして、この状況において、我々はどうしたら良いのかについて、その処方箋含め、お話をしたいと思います。この素晴らしい見沼田圃にその解決のヒントが隠されています。是非、お耳を傾けていただけたら幸いです。

MINUMA EVENT INFORMATION

花と緑の祭典(春の園芸まつり)

5月3日(土・祝)~4日(日・祝) 3日 9:00~16:00、4日 9:00~15:00
※雨天決行、一部中止

- 会場:さいたま市市民の森・見沼グリーンセンター(さいたま市北区見沼2-94)
- アクセス:JR宇都宮線 土呂駅より徒歩約8分または東武アーバンパークライン大和田駅より徒歩約15分

祭典は5月の連休中に開催されます。さいたま市主催の植栽、即ち草花類、植木類、苗類、農産物等を即売する楽しいイベントです。農業や園芸の振興並びに緑化啓発、世界文化等への理解と促進や友好親善を図る目的に「春の園芸まつり」「シビックグリーンさいたま」「国際友好フェア」の3つのイベントが共同開催されます。「春の園芸まつり」では野菜などの農産物・植木・花卉・苗木などの即売、盆栽・洋蘭などの展示と即売、「シビックグリーンさいたま」は緑化推進のPR活動のほか、花いっぱいコンクール、「国際友好フェア」は外国文化の紹介をはじめ、多様な民族料理・民族品の展示・販売や民族舞踊・音楽の演奏などが催されます。



祇園磐船龍神祀り
令和7年5月4日(祝・日)

*集合:東浦和駅前広場10:30 *募集:先着25名

小雨決行 荒天時中止(中止連絡は前日17:00の天気予報で判断)

*参加費(資料代等):一人 400円(別途バス代 510円)

*歩行距離:約6km 歩行時間:約2時間

*用意するもの:昼食、飲み物、雨具、筆記具

コース・スケジュール:(⇒バス→歩行)東浦和駅前10:43⇒総持院バス停→総持院→國昌寺・開かずの門・開門の儀→龍神行列→氷川女體神社→見沼氷川公園(昼食30分)→磐船祭祀場での「祇園磐船龍神祀り」→見沼氷川公園・解散14:30→芝原小学校バス停⇒東浦和駅15:00予定

お申込み:見沼たんぽ地域ガイドクラブ 北原典夫

メール:minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp

FAX.048-834-5731 TEL.090-2675-1684



▲龍神行列



▲磐船祭祀場での「祇園磐船龍神祀り」

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2025年 春号 vol.32

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp
バックナンバーはホームページよりご覧になれます。 

編集:見沼農業・応援連携部会 / デザイン・印刷:有限会社アームズ
発行日:2025年4月5日



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。